

Wellbeing Tour 2021.6.20(sun) →「珠の牧芝植えツアー」備忘録🐮

梅雨の合間の晴となった日曜日、白山町元取公民館からトレッキングにて珠の牧を訪問、すると、西の牧区のゲートが開いており、牛たちが柵の外に出てしまっていたというアクシデントに遭遇。しかし、牧場主のユニークでスマートな対応（餌をあげる振りをして誘導）に遭遇でき、なぜかしら嬉しくなった。芝植え作業は短時間となったが集中して楽しめた。

案内役:内藤徹 参加者:6名



牛たちは、牧区の柵の外側の急な斜面で立ち往生しているように見えた。牧場主の見事な誘導に連れられてもどってきた牛たち。(*^▽^*)よかった。



師匠の芝植え実地説明

「グッと、植えた面を強く押すことで生物にスイッチが入り定着しやすい。」と。



芝植え作業



お疲れさん、記念写真(*^^)v



山をおりる

(個人感想)

今回も Wellbeing Tour が果たせたらうれしいと思われる活動の意味するところが垣間見えた。“より生きることをたのしみたい”とは、誰もが持つ欲求なのではないか？ それを思いだす旅。表題の芝植えだけが目的ではなく、黙々と歩く中で、樹や草のたたくまいから、急に吹く風をうけて、アクシデントの中で起こる他者の行動や動物の反応、自分以外の人たちの会話の中から、、、と云うように、故意的に準備することのできないツアー時間の中に Wellbeing Tour に求めていたことが確かに含まれているのだと思った。

行く道、休憩を取りながら歩くも、体調不良者あり。本人が自分自身とだまされながら下山までの全過程をクリアした。よく頑張ったとも言うし、幸運だったとも言うし、無謀という言葉も当てはまるのかもしれない。科学的ではないが、多くの現代人は自分も含めて、本来の身体能力が低下した状態にあると思う。なので、ちょっとした肉体活動が予想以上の大きな事故を起こすかもしれない。おかしな言いまわしながら、だからといって内容を軽くするのではなく、参加者個々が、命がけのツアーという捉え方をしていくのも必要なことなのかと感じた。

芝植え作業の魅力は何だろう？

放置山林だった山のとっぺんで、山地酪農(やまちらくのう)を実現させるということがどういうことなのか？ 私はまだほとんどわかってはいない。しかし、それを彼がやろうとしているということは毎回伝わってくる。その毎回という時間が、彼の途方もない夢に信頼を生み、どこかでその夢と一緒にかなえたいと思うのか？と。地面に穴をあけ、芝の茎をさし、上から圧迫して定着させる。その工程を適当にはできないのは、彼の毎日の営みが影響していると思った。集中して一本ずつ植えて気持ちいいのは、その夢と一緒に見ることができからかもしれない、という希望が影響していると思った。

案内役の自分自身の考えを聞くのは興味深い。それに影響されるかされないかは二の次で、本人が日々面白がって思考をめぐらし実験しているのだろうことが、興味につながり信頼に結びつくように思った。正しく Wellbeing Tour Guide だと思った!(^^)!

Wellbeing Tour は、とてもゆるく、そして命がけの冒険でありたいと思った。(*^-^*)